

「生活科学概論」の紹介

生活科学部では、「生活科学概論」という学部共通科目を毎年、開講しています。この科目は、生活科学部の掲げる基本理念、すなわち文系・理系といった枠組みを超えた「生活者の視点」を育むことを目的としています。

そのために、生活科学部の各学科・講座の教員がそれぞれの専門分野に基づきながら、一つの共通テーマに関して講義を行ない、物事や問題をさまざまな角度から多面的に捉え、総合的に考える機会を提供します。またこの機会に、生活科学の各専門分野にも関心を広げてもらい、所属の異なる学生同士でのコミュニケーションや問題意識の共有を図り、新たな教育・研究課題の発見、さらには問題解決に取り組む教員・学生の連携を生み出していきたいと考えています。

ここでは、「生活科学概論」の授業を紹介します。これまでの授業で取り上げた共通テーマは、下記の表のようになります。たとえば、2015年度は「防災・災害」をテーマに生活科学の各分野から話題を提供し、生活者の視点および生活の質（Quality of Life）という視点から、「防災・災害」について考え、学生の皆さんと議論しました。また授業では、ゲストスピーカーとして、宮城県の石巻専修大学の坂田隆学長をお招きし、2011年の東日本大震災の被害状況や復興に向けた取り組みについてお話しいただきました。

年度	共通テーマ
2006年度	五感
2007年度	食べる
2008年度	伝統
2009年度	豊かさと生活
2010年度	感覚
2011年度	安全・安心
2012年度	イノベーション
2013年度	生活科学とイノベーション
2014年度	はかる
2015年度	防災・災害
2016年度	災害・防災
2017年度	年齢・世代
2018年度	年齢・世代II
2019年度	多様性
2020年度	情報通信技術と生活
2021年度	コロナと生活
2022年度	都市と生活
2023年度	生活の中からのだ



過去5年間の授業の概要

(2019年度) 共通テーマ「多様性」

科学技術の進歩、情報化、国際化、高齢化、少子化など、私たちが生きる社会は変化の中にあり、生活も大きく変化しています。生活科学部での学びは、文系・理系の広範囲にわたる専門領域から健康で快適な、そして豊かな生活の実現を考慮するものです。豊かな生活の実現は、生活環境と社会に「多様性」が認められることが重要であると考えられています。

生活科学の各分野が「多様性」をどのようにとらえているのか、「多様性」を考慮することが生活者の視点や生活の質の問題にいかに関わるのかを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

授業担当者：斎藤悦子（生活社会科学講座）、市育代（食物栄養学科）、小崎美希（人間・環境科学科）、刑部育子（生活文化学講座）、石丸径一郎（心理学科）

(2020年度) 共通テーマ「情報通信技術と生活」

科学技術の進歩、情報化、国際化、高齢化、少子化など、私たちが生きる社会は変化の中にあり、生活も大きく変化しています。生活科学部での学びは、文系・理系の広範囲にわたる専門領域から健康で快適な、そして豊かな生活の実現を考慮するものです。

生活科学の各分野が「情報通信技術と生活」をどのようにとらえているのか、「情報通信技術」を考慮することが生活者の視点や生活の質の問題にいかに関わるのかを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

授業担当者：鈴木禎宏（生活文化学講座）、佐藤瑤子（食物栄養学科）、太田裕治（人間・環境科学科）、長澤夏子（人間・環境科学科）、永瀬伸子（生活社会科学講座）、西村純子（生活社会科学講座）、菅原ますみ（心理学科）

(2021年度) 共通テーマ「コロナと生活」

2020年、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、私たちの生活は一変しました。手洗い、手指消毒、3密回避、マスク着用、会食禁止、ステイホームなど、コロナ禍の生活で生き抜いていくために、「新しい日常」を取り入れなければいけなくなりました。

生活科学の各分野の専門の教員がそれぞれの分野で、生活におけるコロナの影響をどう考えているかを学び、afterコロナの時代の生活について、一緒に考えたいと思います。

授業担当者：赤松利恵（食物栄養学科）、雨宮敏子（人間・環境科学科）、大森正博（生活社会科学講座）、難波知子（生活文化学講座）、高橋哲（心理学科）

* 2021年度の授業の様子は、2021年11月に発行された学報『OCHADAI GAZETTE』（269号）に掲載されました（別ファイル参照）。

(2022年度) 共通テーマ「都市と生活」

私たちは人口が密集し、産業が集積した都市に暮らすことによって豊かな生活を享受していますが、その反面、都市特有の環境に私たちが暮らすことによって生じる問題を抱えています。また、地球温暖化に伴う気候変動や昨今のコロナウイルスの感染拡大に伴うライフスタイルの変化など、様々な要請に応じて都市の形態や都市における生活様式は変化していくことが予想されます。

都市における生活に関連した諸問題について学び、絶えず変化を続ける都市での生活のこれからについて、一緒に考えたいと思います。

授業担当者：河合英徳（人間・環境科学科）、新田陽子（食物栄養学科）、豊福実紀（生活社会科学講座）、宮内貴久（生活文化学講座）、砂川芽吹（心理学科）



(2023年度) 共通テーマ「生活の中のからだ」

私たちはからだ（身体）として存在し、生活を営んでいます。ですから、私たち自身が、身体について、そして身体を通して学ぶことができれば、生活者の視点を学び、生活の質の向上について問い続けることに大いに役立つはずです。たとえばファッション、食べること、都市や住居を創ることなど、人間の生活の基本である衣・食・住について、私たちの身体を抜きにして考えることができません。また、ジェンダーと社会、テクノロジーの発達、ストレスの増大といった現代社会の課題は、身体性という切り口で考えてみることで、より深く光を当てることができます。

「生活の中のからだ」をめぐって、様々な視点から一緒に考えていきましょう。

授業担当者：山田美穂（心理学科）、野田響子（食物栄養学科）、藤山真美子（人間・環境科学科）、脇田彩（生活社会科学講座）、新實五穂（生活文化学講座）

